

インターバンクの声（2017年8月3日）

ロンドン市場が動き始めてから静かに ADP 雇用統計の発表を待っていた円相場は、前回の結果が上方修正されるなど、労働市場の底堅さが裏付けられたとして一旦はドル買いとなったが、111 円を上抜けることはなかった。

さらに米金利が下げ始め、ブラード・セントルイス連銀総裁が「今年悪化しているインフレ見通しを考えれば、近い時期の追加装置は支持しない」との発言もあり、円相場は再び 110 円台前半まで円買いが進んだ。

昨夜は 110 円台前半で動きが止まるかと思われたが、ニューヨーク市場の後半には米金利が上昇し始め、メスター・クリーブランド連銀総裁やウイリアムズ・サンフランシスコ連銀総裁がともに、徐々に緩和解除を進めるべきとの発言もあったことから、ADP 雇用統計発表前の水準に戻している。

今週に入ってから円相場は、ドルの上値の重さと共に下値の底堅さも確認した感もあり、110 円台で雇用統計を待つことになりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。